

令和4年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

令和4年4月7日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：サツマイモ炭腐病（学名：*Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goidánich）
作物名：かんしょ（サツマイモ）

1 発生経過

- 令和3年10月に、県内の生産者からサツマイモ塊根の腐敗に関する診断依頼があった。
- 症状の見られた塊根はやや軟化し、表皮が陥没していた（図1）。切断すると、内部が表皮下から内側に向かって灰色～灰黒色に変色し、腐敗していた（図2）。
- 当所で、分離菌の形態的特徴、培養性状の調査および遺伝子解析を行った結果、*Macrophomina phaseolina* によるサツマイモ炭腐病と同定した。

2 病徴および発生生態

- 主に貯蔵中のイモに発生する。
- 初期には外部異常が無いが、病イモは次第に軟化する。内部は灰黒色となり、組織中におびただしい黒色の微細菌核（図3、4）が見られる。のちに皮部は暗褐色ないし黒色となって乾固し、内部は木炭状になる。
- 病原菌は、糸状菌の一種で不完全菌類に属する。生育温度は10～45℃、適温は35℃で高温性である。菌核と分生子（柄孢子）を形成し、菌核は黒色、極小型で、分生子は無色、単胞、楕円形である。
- 病原菌は菌核の形で病イモ中で越冬し、翌年の伝染源となると考えられる。
- 病原菌は多犯性で、日本植物病名目録（日本植物病理学会、2022）によると、ウリ科（メロン、キュウリ、スイカ）、マメ科（ダイズ、アズキ、ササゲ、インゲンマメ、アルファルファ、アカクロバ）、キク科（ヤーコン、キク）で本病原菌による病害が報告されている。また、ハウレンソウ（ヒユ科）、セルリー、パセリ（以上、セリ科）、ユウガオ、カボチャ、ヘチマ、マクワウリ（以上、ウリ科）、エンドウマメ（マメ科）に病原性を有する（藤永ら、2005）。

3 防除対策

- 令和4年3月現在、本病に対する登録農薬はない。
- 発病株は抜き取り、ほ場外で埋却等の処分をする。ほ場から可能な限りサツマイモの残さ（茎葉を含む）を速やかに除去する。
- 本病が発生したほ場で使った資材や機材、長靴などを別ほ場で使う際は、消毒や洗浄を十分に行う。
- 連作を避ける。

（参考文献）

藤永真史ら（2005）：土と微生物 59(2)：125-129.

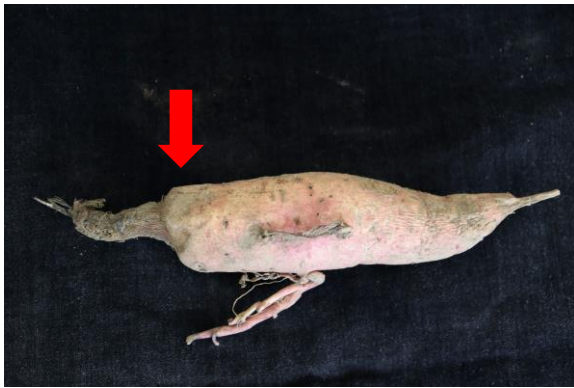


図1 腐敗により表皮が陥没した塊根



図2 塊根表皮下の灰色腐敗
(品種：パープルスイート)



図3 塊根表皮下の微細菌核



図4 塊根切断面の微細菌核

神奈川県農業技術センター 病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>